

**「大鹿村内発生土仮置き場における環境の調査及び影響検討の結果」に対する助言（案）****1 事業計画**

- (1) 候補地から計画地に至るまでの発生土仮置き場の選定の経緯について、環境の保全の見地からの検討の経過を含めて記載すること。
- (2) 計画地Bについては現況が農地であるため、土砂搬出の後の原状回復の方法を具体的に記載すること。

**2 大気質、騒音、振動**

- (1) 建設機械の稼働による影響について、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を合算した場合も、環境への影響は大きく変わらないことを説明すること。
- (2) 影響検討の結果で寄与率が高い地点についても、環境保全措置の確実な実施等により環境影響の低減が図られることを、丁寧に記載するよう努めること。
- (3) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による大気質に係る影響検討において、検討地点のバックグラウンド濃度として一般環境大気質の現地調査結果を用いているが、理由を明記するとともに、その妥当性を判断できるデータを示すこと。
- (4) 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による騒音及び振動に係る影響検討において、一般車両の通行が些少であるとして、現況値に検討地点の近傍における一般環境の現地調査結果を用いているが、その妥当性を判断できる一般車両の通行量のデータ等を示すこと。

**3 水質、地下水**

濁水や発生土に含まれる重金属等による影響を防止するための環境保全措置を具体的に示すこと。

**4 土地の安定性**

- (1) 盛土の計画を分かりやすくイメージできる断面図等を添付すること。
- (2) 河川区域との位置関係や河床との比高等が分かる資料を添付するとともに、洪水時における安全性について説明すること。
- (3) 砂防指定地内に盛土するために講じる安全対策を具体的に示すこと。
- (4) 計画地Aの近傍で実施した地質調査におけるボーリング柱状図を添付すること。

**5 動物、植物、生態系**

- (1) 計画地の近傍に希少種の重要な発生箇所があるので、その改変を極力回避すること。
- (2) 発生土が仮置きされる期間を踏まえて、外来植物の侵入や樹林化に係る必要な対策を検討すること。

- (3) 調査期間は調査の精度を判断するために重要となるので、準備書作成時、追加調査時又は今回調査の区分が分かるように注釈等を追記するとともに、今回の影響検討に係る調査期間に限定して記載するよう努めること。
- (4) 飛翔頻度の高いハチクマの営巣の有無について、今後も調査を継続するとともに、営巣が確認された場合は適切な環境保全措置を講じること。
- (5) 準備書に対する知事意見において指摘したミゾゴイ、キマダラルリツバメ、ハマスズについては、「文献調査でのみ確認された重要な種に対する検討結果」にまとめて記載するだけでなく、確認調査やモニタリングの結果を踏まえた今後の対応を併せて記載すること。
- (6) ミゾゴイについては、平成 28 年 6 月に環境省が公表した「ミゾゴイ保護の進め方」を踏まえて今後の調査等を実施すること。
- (7) 準備書に対する知事意見において指摘したツバグロイワギセルについて、検討結果を記載するとともに、モニタリングの結果を踏まえた今後の対応を記載すること。

## 6 景観

- (1) 計画地 B について、近隣の集落との位置関係が分かる大縮尺の地図を添付し、周辺の状態を踏まえた影響検討の結果の妥当性を確認できるようにすること。
- (2) 景観に係る環境保全措置について、具体的な内容が分かるように記載すること。

## 7 人と自然との触れ合い活動の場

検討の基本的な手法について、今回の検討に用いた手法のみを記載すること。